

- マツダ、「アテンザ」等計3車種の非常点滅表示灯に不具合があるとしてリコール 14年11月3日～15年9月9日に生産した4万0836台  
急制動や事故発生時に緊急点滅表示灯及び非常点滅表示灯により後続車に注意をうながすシステムにおいて、制御プログラムが不適切な為、当該システムの作動時に非常点滅表示灯の点滅回数が保安基準に適合しなかった。
- ダイハツ工業、「タント」等計3車種のヒューズボックスに不具合があるとしてリコール 15年8月19日～9月2日に生産した計3900台  
ヒューズボックスの製造プログラムが不適切な為、フロアモータ配線の端子部を逆向きに組み付けたものがある。その為、端子の固定が不十分になり、端子がこすられて絶縁物質が生成され、最悪の場合、デフロスタが作動しなくなる恐れがある。
- マツダ、「ファミリア」等計21車種のイグニッションスイッチに不具合があるとしてリコール 89年1月10日～05年12月1日に生産した92万3672台  
イグニッションスイッチ内部の接点に過剰な量のグリスが塗布された為、スイッチ操作時に発生するアーク放電の熱によりグリスが炭化。可動接点と固定接点間に堆積し、スイッチ内部の絶縁性が低下することがある。その為、そのまま使用を続けると接点間が導通してスイッチが発熱、発煙し、最悪の場合、火災に至る恐れがある。
- 三菱自動車、「デリカ」のシートベルトに不具合があるとしてリコール 15年6月3日～7月28日に生産した1390台  
3列目左右シートベルトの上部アンカー取付けボルトの締付けトルク設定が不適切な為、基準値を下回るトルクで組付けられたものがある。その為、そのまま使用を続けると、当該ボルトが緩み、シートベルトが機能しなくなる恐れがある。
- トヨタ自動車、「クラウン」のボンネット固定部に不具合があるとしてリコール 12年11月28日～15年9月22日に生産した計14万0542台  
ボンネット固定部の強度不足により、ボンネット主ロックが解除された状態で高速走行すると、風圧等により副ロック装置取付部が変形することがある。その為、副ロックの噛み合いが外れて走行中にボンネットが開く恐れがある。
- トヨタ自動車、「ヴィッツ」等計6車種のパワーウィンドウスイッチに不具合があるとしてリコール 05年1月18日～10年6月29日に生産した計60万0965台  
運転席ドアのパワーウィンドウスイッチにおいて、スイッチ潤滑油グリスの量が不足しているものがある。端子摺動部から出る摩耗粉と水分等の浸入でショートを起こし、端子が発熱。当該スイッチ及び周辺の樹脂部品が焼損し、最悪の場合、火災に至る恐れがある。
- 日野自動車、「デュトロ」・トヨタOEM「ダイナ」等計7車種の燃料遮断弁及び自動クラッチ装置、助手席側ミラーに不具合があるとしてリコール  
燃料遮断弁については、DPR(排出ガス浄化装置)において、電気式燃料遮断弁のシール構造が不適切な為、防水用キャップと遮断弁本体の合わせ面から水が浸入することがある。その為、遮断弁内部のコイル線が短絡または断線して、警告灯が点灯するとともに、コイル線の発熱により樹脂部品が損傷して、最悪の場合、燃料が漏れる恐れがある。自動クラッチ装置については、作動用モータの配線の配素が不適切な為、防水用グロメットが変形してモータ内部に水が浸入することがある。その為、ブラシの摺動が悪くなり警告灯が点灯し、最悪の場合、ブラシが固着してクラッチが作動せず、走行できなくなる恐れがある。又、モータ内部のブラシのリード線の配素が不適切な為、リード線がガイドに引っかかるものがある。その為、ブラシが摺動が悪くなり導通不良を起こし、最悪の場合、モータが作動せず、走行できなくなる恐れがある。ルートバンの助手席側ミラーについては、鏡面と本体の固定方法が不適切な為、走行振動等により鏡面と本体の嵌合爪が摩耗することがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、嵌合爪が破損し、最悪の場合、鏡面が脱落する恐れがある。  
11年7月2日～15年7月15日に生産した計7万8049台
- 日野自動車、「レンジャー」「ポンチョ」の燃料遮断弁に不具合があるとしてリコール 11年7月11日～14年6月13日に生産した計2万6858台  
DPR(排出ガス浄化装置)において、電気式燃料遮断弁のシール構造が不適切な為、防水用キャップと遮断弁本体の合わせ面から水が浸入することがある。その為、遮断弁内部のコイル線が短絡または断線して、警報灯が点灯するとともに、コイル線の発熱により樹脂部品が損傷して、最悪の場合、燃料が漏れる恐れがある。
- フォルクスワーゲングループジャパン、「ゴルフ」等計6車種の燃料ポンプに不具合があるとしてリコール 14年1月17日～7月15日に生産した計1480台  
燃料ポンプ内部の製造工程が不適切な為、内部部品のメッキコーティングが剥がれ、内部に異物として残留するものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、燃料ポンプ内のインペラに異物が噛み込み、燃料ポンプが停止し、最悪の場合、走行中にエンジンが停止し再始動ができなくなる恐れがある。
- トヨタ自動車、「コースター」等計5車種の燃料遮断弁と燃料フィルタに不具合があるとしてリコール 11年6月28日～14年5月26日に生産した7296台  
燃料遮断弁については、DPR(排出ガス浄化装置)において、電気式燃料遮断弁のシール構造が不適切な為、防水用キャップと遮断弁本体の合わせ面から水が浸入することがある。その為、遮断弁内部のコイル線が短絡または断線して、警報灯が点灯するとともに、コイル線の発熱により樹脂部品が損傷して、最悪の場合、燃料が漏れる恐れがある。燃料フィルタについては、ディーゼル車のエンジンに取り付けられている燃料フィルタの強度が不足している為、頻繁にエンジンの始動、停止を行うと燃料圧力の変動により、燃料フィルタのケースに亀裂が入るものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、亀裂が進行しフィルタケースが破損して、最悪の場合、燃料が漏れる恐れがある。
- บี·एम·다블류·BMW「523i」等計12車種のオイルフィルターに不具合があるとしてリコール 11年8月11日～12年4月11日に生産した5250台  
オイルフィルターハウジングの材質が不適切な為、エンジンの温度の影響を受け、熱膨張をするものがある。その為、熱膨張を繰り返すことで当該ハウジングが変形して、シーリング部の密閉性が不足し、冷却水やオイルが漏れ、最悪の場合、走行中にエンジンが停止する恐れがある。
- 三菱自動車、「アウトランダーPHEV」の燃料ホース及びブレーキブースターに不具合があるとしてリコール  
燃料ホースについては15年6月9日～9月7日に生産した1901台。ブレーキブースターについては13年2月15日～3月12日に生産した1682台  
燃料ホースについては、燃料パイプとの継ぎ手部(クイックコネクター)の嵌合作業が不適切な為、一部の車両において、クイックコネクターが正しく嵌合していないものがある。その為、嵌合部より燃料が漏れる恐れがある。ブレーキブースターについては、リップシールの組付け作業が不適切な為、グリスが塗布されずに組付けられたものがある。その為、リップシールの摺動抵抗が増大して捲れるとエアが漏れ、最悪の場合、ブレーキペダルの操舵力が増大し、制動距離が長くなる恐れがある。
- پژ오·시트오엔·자보ん·Pಜೋ「308」等計2車種のロアアームボルト及びハーネスサポートに不具合があるとしてリコール  
フロントサブフレームとロアアームを取り付けているロアアームボルトについては、強度不足の為、折損し、異音が発生するものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、ロアアームが外れ、ハンドル操作ができなくなる恐れがある。バッテリートレイに取り付けられているエンジンハーネスを固定するためのハーネスサポートについては、製造時に誤った部品が取り付けられているものがあり、ラジエーターホースと干渉するものがある。その為、そのままの状態で使用を続けると、ラジエーターホースが損傷し、冷却水が漏れ、最悪の場合、エンジンがオーバーヒートする恐れがある。  
14年9月9日～15年3月28日に輸入した1409台